値の比から計算して求めた。

図2 酢酸ブチル(●)および酢酸2-ブチル(▲)の生成率の時間変化。

謝辞
本研究の機会を与え、同時に研究費により支持してくださったMacalester Collegeの化学科に深く感謝します。

参考文献
2) 清水かおり, 丸山隆雄, 化学と教育, 45, 327 (1997).
3) 石山公, 安原富士子, 丸山隆雄, 山口勝三, 化学教育, 34, 506(1986).

「無機化学—その現代的アプローチ」

平尾一之・田中勝久・中平 敦 著
東京化学同人
463ページ, 3,300円

本書は、無機化学を学ぶものにとって非常に基本的な部分から最近の話題になっている部分までを網羅し
ており、中身の濃い内容に仕上げている。
無機化学を学ぶ者にとって、原子の構造と量子力学、さらに分子軌道法のバンド計算など物理化学的な範囲を丁寧にわかりやすく記載している点が特徴である。
また、最近の話題になっている固体磁気材料の磁気性質や酸素のバイオセラミックスの専門的な分野には、かなりのスペースを割りあけたようなデータを付し
詳細な説明がなされており、専門書かと思わせる程の内容が豊富である。全般的に従来の無機化学の教科書を破壊した画期的な内容に仕上げているように思える。

（大阪府立今宮高等学校　平井俊男）